

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400417
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	八幡浜市松柏甲728-1
自己評価作成日	平成23年10月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

夕涼み会、敬老会、法人バザー、月に一度の外出レクなど行事を取り入れている。理念に基づいた介護で一人一人がその場で活動や作業が出来るよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

調査訪問時の昼食の時間、落ち着いた状態の利用者に職員は、おかずを少量ずつお出しして、手が止まってしまうと、そっと声をかけながら食事がすすむように対応されていた。利用者が職員に「私よりずっと若いのにやさしいし、気も利くし、料理もおいしい、最高やな～」とほめておられる様子がみられた。
 今年は、火事・地震を想定して避難訓練を実施された。地震想定の際には、百均の座布団2枚を重ねて作った頭巾を使って避難された。利用者からは、「いつまで帽子を被ったのか、どこまで避難するのか、誰が連れに来るのか」等、不安や心配ごとについて具体的な質問も出された。火事想定の際には、消防署の協力を得て1階ユニットに煙を流してもらい避難訓練を行い、「前が見えなくなる。動いたら車いすに当たった。」等、訓練途中にも利用者から質問が出された。毛布を使って担架を作り、実際に使用してみる訓練も行われた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) きんかん

記入者(管理者)
氏名 広瀬照美

評価完了日 23年10月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「ゆっくり、楽しく、いつも一緒に」という理念をかかげ、スタッフがそれぞれ心に留めて実践に繋げているが、レベル低下により皆で一緒にが難しくなっている。 (外部評価) 事業所は「地域の中で、その人らしく暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きて行く。」「家庭的な雰囲気の中でゆっくり、楽しく、いつも一緒にをモットーとして、自立支援を行う。」と理念を掲げて、玄関や2階ユニットの入口に掲示されている。管理者は、理念に沿って「利用者にとって、ホームが第2の家庭となるよう支援に取り組んでいきたい」と考えておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夕涼み会に来てもらったり、中学校、公民館の行事に参加、また、夏休みには近所の子供達が遊びに来ている。地区防災訓練や自主防災会議等に参加、交流を心掛けている。 (外部評価) 散歩時、近所の方が声をかけてくださったり、事業所の中庭にテーブルを出して、食事をしていると通りかかった方が声をかけてくださることもある。事業所の向かいにある中学校の文化祭や運動会に参加されたり、生徒が福祉体験の実習に訪れ、利用者と交流されている。小学校低学年の子ども達が、夏・冬休み中に遊びに来てくれ、利用者は、子ども達とふれ合い、普段は見せないような顔をして喜ばれたり、お話をされるようだ。管理者は、地域の方が「近所に遊びに行くような感覚でホームに来てほしい」と考えておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 今年度から施設内覧会を開催し、一般の人にも少しずつ理解してもらっている。また、中学生福祉体験受け入れにて認知症の人の理解、支援をして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を年6回開催している。他事業所や地域の方が出席し、意見交換を行っている。会議での意見は、スタッフ会で話し合いサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議を重ねることで、ご家族同士も顔見知りになり、家族会へと発展するきっかけになった。会議と合わせて避難訓練を行った際には、消防の副分団長から地域とのかかわりについて助言をいただいたり、他グループホームの方からは、自事業所の活動を紹介してもらったり、ご家族からは、「外出行事等の費用はどうしているか」「食事はどういう風に行われているか」「仲良くしているか」等、気になるようなことについて質問が出され、管理者は、利用者の生活の様子をさらに具体的に報告されている。又、地域の方達に事業所のことを知ってもらえるよう「夕涼み会の際に、内覧会を実施してはどうか」と提案いただき、実行された。後日、内覧会に来られた方が、野菜やお菓子を持って来てくださった。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 月に1度さわやか相談員を受け入れ、利用者とは話したり、助言を頂いている。八幡浜市グループホーム連絡協議会の研修に参加している。</p> <p>(外部評価) 市の連絡協議会主催の研修は、現在、年に2回開催されており、職員が参加されている。運営推進会議時、市の担当者の方に事業所の実情を知ってもらったり、ケア等についての意見をうかがっておられる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ほとんどの職員が身体拘束の研修に参加し、理解している。自由に出入りできるよう、玄関の鍵は開けている。</p> <p>(外部評価) 玄関は、出入り時にチャイムが鳴り、職員が分かるようになっている。2階の階段降り口には、車いすを使用する利用者の転落防止のために柵を付けておられ、職員が出入りする時には「必ず閉める」ことを徹底されている。利用者は、1・2階を行き来されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加、研修内容をスタッフ会で報告し、防止に努めている。家族が来所した際、思うようにしないのが、気に入らず叩かれる事があり、その折は話をし、防止に(注意をして)努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受け、制度について把握している。現次点では利用の対象になる入居者がいない為活用していない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ユニットリーダーが契約に関わり、重要事項説明書に沿ってゆっくり説明し、質問にも対応している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 4月より2ヶ月に1回ハガキ送付、家族からの意見、アドバイス等を頂き運営に反映している。意見箱を設置し、意見があればスタッフ会で話し合っている。 (外部評価) 10月に、食事会を兼ねて、第一回の家族会を開催された。ご家族同士のお話も弾み親睦も深まったようで、今後、事業所では「年2回くらい実施したい」と考えておられた。前回の外部評価結果を受けて、ご家族の意見や要望を引き出せるよう、2ヶ月毎にハガキにて、行事や外出等の支援、又、ケアについて等、2~3項目の質問を設定して、アンケートをとる取り組みを始めておられる。現在は、10%ほどのご家族からのお返事があるようだ。今後も、ご家族が意見や要望を出しやすいよう工夫してご家族の声を集めていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ホームでの月1回のスタッフ会が有り、意見や提案を聞く機会を設けている。代表者は、法人内の管理者が集まって会議を行い意見はまとめて伝わるようになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			月一回のスタッフ会では、法人本部からの連絡や事業所内の業務連絡を行ったり、ヒヤリハットについて話し合い、ケアの共有に取り組まれている。職員の退職があり、新しい職員が入るまで職員の人員がタイトになるようで、職員は利用者に「ちょっと待って」と言わなければいけない場面もあるようだ。又、職員は、休憩時間の確保や利用者の生活に合わせて、早出等の勤務体制の整備への希望も持っておられる。利用者の生活を支えていくための体制作りについては、現場職員の声を法人に届けることを続けていかれてほしい。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修規定があり、研修項目によっては、受講料や交通費等の支給がされている。ほぼ毎月2名以上、業務中に研修を受けている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他の事業所の行事や運営推進会議等に参加し、情報交換や交流を行っている。リーダー研修等の受け入れ等でも、意見を頂いている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			サービス前に管理者やユニットリーダーが面会し事前に不安、要望等に耳を傾けている。事前に会うことで入居時の不安の軽減につとめている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時に要望や困っている事等、聞き、スタッフ会、申し送りでスタッフ全員が共有できるようにしている。また、見学や申し込みに来所された時点でも話を聞いている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前に状態を見て、本人、家族の話を聞いた上で受け入れをしている。入所後1週間以内に、本人、家族の現状や要望を聞き、ケアプランを立て、本人、家族に支援の方法などを説明している。また必要に応じ、関係の病院等にも相談、連携をお願いしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯物たたみ、調理の下ごしらえなど、作業を一緒に行う事で共に生きている、役に立っているという気持ちを持って頂いている。一緒に過ごすことで喜びや悲しみを共感したり、時には人生の先輩としての意見を聞いている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回、日常の様子や行事の案内を送り、家族に参加して頂けるよう働きかけている。来所時には近況報告したり、何かあれば連絡を取っているが、時には電話で元気な声を聞いてもらったりして家族との関わりを持っている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 談話の中で地域の出来事を話したり、新聞記事を読んでいる。行きつけの美容院へ毛染めに行く支援もしている。友人、知人、家族が気兼ねなく来所できるよう雰囲気作りをし、来所時にはゆっくり話ができるよう努めている。 (外部評価) 以前、同じサークルで活動していた友人や、趣味の仲間、ご自宅の近所の人や同級生が訪ねて来てくださっている。「昔住んでいたところに行ってみたい」という利用者の希望を受けて、近くをドライブされることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人が孤立しないよう心掛けているが、個性の違いで関係が難しくなる事があるが、その時には職員が間に入っている。 午前中のレクリエーションやおやつ時等スタッフも入りコミュニケーションを深めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ほとんどが死亡されており、町で出会ったときに声をかけている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の希望や思いを聞けるようゆっくり話し合える機会を取るよう努力している。その人らしい生き方をして頂くよう努めている。 カンファレンスでは本人本位に考え、ひとり、ひとりが希望する、生活ができるよう検討している。	
			(外部評価) 入居時に、生活歴や病歴等の「基本情報」の把握に取り組み、その後、3ヶ月ごとに職員が「心身情報」について、項目に沿って情報収集に取り組んでおられる。年一回、センター方式のアセスメント表を用いて、利用者個々の状態や思いや意向等、利用者ご本人の全体のことについて見直すようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個別に基本情報を作成している。また、入居前の生活状況や環境等、家族や本人から聞くようして把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別にバイタルチェックや様子を介護記録に記入、また、朝、夕の申し送り時に個別の状態を伝え、職員全員が把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や利用者に思いを聞き、介護計画を作成している。3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行い、必要な支援が出来るよう心掛けている。	
			(外部評価) 3ヶ月ごとに、モニタリングして介護計画を見直しておられる。ご家族の来訪時や電話、はがきによるアンケート等でお聞きしたご家族の意向や要望も、計画に採り入れておられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、行動・発言を詳しく介護記録に記入し、職員間で情報を共有している。毎日申し送りを行い、よりよい介護につなげるよう心掛けている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族や利用者に希望を聞き、サービス支援を行っている。一人ひとりに合わせて病院受診や買い物へ言ったり、散髪にきてもらったり、できるだけニーズに対応できるようつとめている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事に参加している。又ボランティアに来て頂き楽しく過ごせるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的に主治医が往診医療を提供してもらっている。また、毎日入居者の様子をファックスで報告、急変時には24時間対応し、連絡や、対応ができています。必要な時には、皮膚科、耳鼻科等の通院介助を行っている。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医を受診する利用者は、事前にご家族と連絡をとり、ご家族が付き添えない場合は、介護タクシーを利用して職員が同行されている。毎日、利用者の状態を協力医にFAXされたり、往診日に報告できるように、職員が気付いたことを記録されており、同じ用紙に往診後の指示や処方の変更等を記入するような仕組みを作っておられる。週1回、看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしてくださっており、看護師からの報告書は、その日のうちにFAXで届くようになっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回、医療連携看護師に来てもらっている。気づいた事、状態変化等を報告、相談し、早急に対応して頂いている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 母体が病院のため、関係作りはできている。入退院時には医療連携看護師を通して情報交換や相談に努めている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時ホームで出来る範囲の事は説明している。入居時に希望等を聞いているが、母体が病院である事で、漠然とした回答が多い。	
			(外部評価) これまでに事業所で看取りを支援した経験はないが、今後、利用者やご家族からの希望があれば、母体医療機関と話し合い、体制を整えたいと考えておられる。入居時、ご家族に終末期のあり方について希望を聞くようにされているが、ご家族は、母体医療機関への移行を希望する方も多い。「地域の中で、その人らしく暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きて行く」という事業所理念にも沿って、利用者の思いの把握と合わせて「終末期に事業所でできること」について、具体的に話してみるような機会にされてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署で救命講習を受けたり、急変時の対応の勉強会に参加し、訓練を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練を実施している。4月には運営推進会議を兼ね消防署員や近隣の方にも参加して頂き訓練を行い、アドバイスを頂いている。10月には震災訓練や搬送の方法等利用者共々おこなっている。年1回地域の防災訓練に参加したり、避難時に必要な物品を準備している。	内覧会等、近所の方達に事業所内のことを知ってもらえるような取り組みを続けられたり、今後、事業所では、津波を想定した訓練等にも取り組みたいと考えておられる。避難訓練時の課題を、毎回、明らかにして、利用者、職員の安全・安心に向けて体制を作っていかれることが期待される。
			(外部評価) 今年、火事・地震を想定して避難訓練を実施された。地震想定の際には、百均の座布団2枚を重ねて作った頭巾を使って避難された。利用者からは、「いつまで帽子を被ったのか、どこまで避難するのか、誰が連れに来るのか」等、不安や心配ごとについて具体的な質問も出された。火事想定の際には、消防署の協力を得て1階ユニットに、煙を流してもらい避難訓練を行い、「前が見えなくなる。動いたら車いすに当たった。」「口を抑えるのは、紙？布？」等、訓練途中にも利用者から質問が出された。毛布を使って担架を作り、実際に使用してみる訓練も行われた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の誇りやプライバシーを大切にしながら言葉をかけて対応するよう心掛けている。居室は個室でプライバシーを確保している。	
			(外部評価) 脱衣所には、利用者一人ひとりの名前を記した脱衣かごを置き、着替えや下着を間違えないように工夫されている。職員が、利用者をトイレに誘う時には、声の大きさにも気を付けておられ、便所禁時には、居室か脱衣所で対応されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定のできにくい人には、疑問系で声かけし、意志や決定をできるようにしている。本人が選択できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースに合わせ、眠気の強い時は休んで頂き、 帰宅願望の強い時は、外出し気分転換したり、嫌だと思っ たは無理強いせず、自由に過ごして頂き、希望に添えない時 はよく説明して納得して頂くよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 定期的に美容室の出張サービスを受けている。入浴時等、 着替えは好みの服を選んでもらって、一緒に上下のつりあい を考えたり、外出時にはおしゃれな服を選んだりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常の手伝い、米研ぎ、下ごしらえ、後片付けなど一緒にし ている。誕生日会には好きな食べ物を聞いて、希望に添える 献立を立て、楽しめるようにしている。	
			(外部評価) 献立は、法人内の5グループホームが交代で作成したものを 用いておられ、行事や誕生日には、利用者とも相談しながら 献立を決めておられる。食材は、地域の業者が配達してくれ るようになっている。利用者は、それぞれのことできることを無理 なく行っておられ、豆の筋取りやお膳拭き等をされている。 食事はできるだけ、みなで一緒に「いただきます」と食べ始め られるよう支援されており、職員は、介助の必要な方の隣りに 座り、一緒に同じものを食べながら、利用者をサポートされて いる。調査訪問時、落ち着かない状態の利用者に職員は、 おかずを少量ずつお出しして、手が止まってしまうと、そっと 声をかけながら食事がすすむように対応されていた。調査訪 問時、利用者が職員に「私よりずっと若いのにやさしいし、 気も利くし、料理もうまいし、最高やな～」とほめておられる様 子がみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量を把握し、記録している。医師の指示によ り、カロリーを押さえ薄味にしたり、ミキサー食にしたり、一人 一人の状態に対応している。10時、15時、入浴後の水分補 給をして頂いている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。出来ない入居者は介助して いる。週1回義歯洗浄を実施している。夜間は義歯を外して 頂くようにしている。拒否され、入れたまま入眠される方もい る。義歯の状態が悪い場合は、本人、家族の希望を確認し、 歯科の往診を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、定期的、時間的にリズム良くトイレ誘導を行っている。夜間トイレに通うのが難しい方は、居室内にPTイレを設置して、管理している。	
			(外部評価) 排泄チェック表には、時間列に、分まで記録されており、個別に排泄間隔が分かるようになっている。夜間は、ベッド横にポータブルトイレを置き、ご自分で利用されるが、物音がすると職員は見守りに行かれている。ベッドからの立ち上がり時、転倒する心配があるような利用者には、センサーを置き、音がすると職員が駆け付けるようになっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給の促しや、運動、散歩、食べ物の工夫にて、個人、個人に対応した予防に取り組んでいる。中には便秘薬や浣腸に頼っている方もいる。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後より3日に1回のペースにて入浴しているが、行事等で午前中に入浴されることもある。拒否のある方にはその都度声かけを工夫し、入浴して頂いている。	
			(外部評価) 入浴は3日に1回、午後からとなっており、イベントがある日は、午前中に入浴することもある。一般家庭用の浴槽で、介護度が重度の利用者が入ることは難しいと感じておられ、車いすの出入りがしやすいよう「浴室の入口を広くしてほしい」と、法人に要望されているところである。入浴に気が向かない利用者には、「今日は無料の日よ」「奥道後温泉よ」と誘ったり、「動きたくない」という利用者には、トイレに行った際に浴室に誘導する等して、入浴支援につなげるよう努力をされている。「一番風呂じゃなければ」という利用者の方には、お湯を張り直して支援されている。	入浴について、職員の人員によっては、支援が難しかったり、又、入浴介助時に腰を痛めるような職員もあるようだ。入浴支援について、利用者が気持ちよく入浴できるよう、現場をみてもらいながら法人と話し合うような機会を作ったり、運営推進会議時に、現状を報告しながら工夫できることを話し合ったりして、支援につなげていかれてほしい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人のペースで休んで頂いている。また、眠気のある方には、居室に誘導して休んで頂いている。夏・冬の就寝前に冷暖房を使用してゆっくり休めるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に処方箋を介護記録にファイルしており、薬の増減や中止、新たに処方など変更があれば、業務日誌、記録用紙に記入して周知している。また、状態観察をDrに報告している。薬は、氏名、日付、いつの薬か声を出して確認し、手渡しや直接介助して間違いのないよう内服して頂いている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の能力や生活歴を参考に、洗濯物たたみ、メニュー書き、米研ぎなどの役割を持って過ごして頂いている。夜は水分補給を兼ね、好みの飲み物を飲んで頂き、リラックスできるようにしている。誕生日には希望のメニューを取り入れたり、敬老会、クリスマス会、夕涼み会等、季節の行事を行い、楽しんで頂いている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望により、散歩や買い物等、家族の協力を得たり、スタッフと一緒に外出している。重度化や車の手配などもあり、難しくなってきたが、年数回は初詣、花見イベントの参加など家族にも声かけして行っている。 (外部評価) 近所の中学校や神社を散歩されている。外出時に、後車に追突されたこともあって、現在は、利用者を車に乗せて外出する際には、法人本部の許可が必要となり、外出が制限されるようになったようだ。通院は、介護タクシーを利用し、行事等の外出時は、法人のバスを利用できるが、車いすを使用する利用者が多く、男性職員が勤務の日でなければ難しいようだ。	外出の制限がある中でも、利用者が地域の中で社会生活を続けられるよう、地域に出かけて行けるような支援に努力していかれてほしい。ご家族等、利用者にかかわる方達の協力も得ながら、出かけるような機会を作っていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にはホームで管理しているが、外出時に希望の品を購入してもらい、立て替えている。本人が持っていて安心するようであれば、小遣い程度の金額を所持してもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由に使用できるようリビングに電話を設置している。携帯を持っている方には希望により介助している。家族の希望によりセーブしている場合は、家族に手紙を書いて頂くようお願いしている。また、利用者から手紙を出せるよう便箋や封筒などを用意している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 芝用の空間では窓を開けたり、エアコンを使用したりして調整している。トイレ、風呂等分かりやすく表示している。壁等には入居者と一緒に季節感のあるものを作ったりして飾っている。キッチンで食事を作る音や匂いで食欲を刺激したり生活感をだしている。</p> <p>(外部評価) 玄関の椅子に座ると、大きなガラス越しに庭の木が眺められる。廊下には、神棚が祀られてあり、手を合わせる利用者もいる。2階は、天窗が開閉できて、自然の光を採り入れ明るい空間となっている。1階ユニットは、テラスに車いすで出て日向ぼっこされたり、時期になると、きんかんやすだちを収穫されている。事業所の各所に絵画や利用者の作品が飾られており、職員の顔と名前がイラスト風に掲示されていた。大きな日めくりカレンダーや行事時の写真を貼っておられる。温湿度計が、エアコンのスイッチ横にかけられてあり、調節の目安にされている。浴室入口に「ゆ」の、のれんをかけ、トイレの表示は少し低めに掲示されていた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビング、居室、廊下等に座られる場所を作っている。気の合った人同士が話をしたり、テレビを見たりできるようにしている。2Fとの交流もスタッフと共に自由な時にしている。少し休みたい時には居室で横になれるようにしている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅で使っていた物や家族の写真、また、作品等を飾っている。タンスやベッドも各自が使い易いように配置している。それぞれが工夫したり自由に使えるように気配りしている。</p> <p>(外部評価) タンスとベッドは各居室に備え付けられており、冷蔵庫を持ち込んでおられたり、携帯電話を使用している方もいる。ご家族の写真、お孫さんからの手紙を飾ったりされている。居室からもテラスに出られるようになっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下、トイレには手すりをつけている。トイレ、風呂等には分かりやすいように大きな字で張り紙をしている。段差をなくし、車椅子が動きやすいようにしている。少し足元不安定な人も手引き歩行してなるべく本人の能力を活かすよう努めている。</p>	